北上

スポーツクラブ「フォルダ」

広い世代に交流の輪

北上市の総合型地域スポーツクラブ、特定非営利活動法人（NPO法人）フォルダ（木野義治理事長）は、市民有志による活動開始から5年が経過した。スポーツの普及、育成活動に限らず、生涯学習なども多彩に展開。幅広い年齢層に活動の場と交流の輪を広げる。

「日本でトップクラスのクラブをつくろう」。有志5人が準備を進め2004年秋からジョギング教室などを始めた。「仲間づくり▽スポーツマンシップを考える▽トップを育てる」が理念の3本柱だ。

スタッフ12人体制で、近年は各種スポーツなど年間約80種目を展開。昨年5月には4歳児～中学3年生対象のスポーツ少年団「フォルダスクール」を開設し、一貫指導に取り組む。会員自らが講座などを企画、実施する「言い出しっぺ方式」はユニークな方法として注目を集める。

西和賀町の集郷温泉で昨年10月に開かれた「いわて・あきた県境国取り合戦」では企画を担当し、県民対抗綱引き含戦などイベントの盛り上げ役に徹した。

会員は市民を中心に約700人と年々数を増やす。「笑顔のつくれる場を提供できるよう、活動の充実を図りたい」と司東道雄ゼネラルマネジャー。「指導者もスタッフもスキルアップする一年に」と躍進を誓う。

※ 岩手日報　平成22年1月1日付　朝刊
※ この記事は岩手日報社の許諾を得て転載しています。無断転載、複製及び頒布は禁止されています。